# 2024年 日本離床学会 認定試験

## <総評>

今年度もオンラインで認定試験が開催された。事前に模擬試験を用いた接続テストを受験者全員に対して実施し、試験当日のインターネットトラブルはなく、受験者全員が解答を提出することができた。今年より問題数が70問から50問へ変更され、臨床の実践力を問う問題が多く出された。従来より時間に余裕を持って臨めるようになったこともあり、合格率の上昇がみられた。

離床インストラクター筆記試験の出題範囲は、日本離床学会の教育講座および全刊行物が主な出題範囲となる。正確な机上の知識に加えて、実践力を問う問題が特徴である。今年の試験の傾向として、例年よりも実践問題の割合が多く出題された。また、呼吸・循環・脳神経・整形の基本領域に加えて、栄養・認知症・サルコペニア・フレイル・悪性腫瘍などの疾患や、検査データ・画像判読など幅広い知識が必要となる試験内容であった。

離床アドバイザー筆記試験の出題傾向は、臨床で必要な離床の基礎・応用知識を中心に出題された。アドバイザー試験は合格すれば、当会指定の教育講座、実技講座の受講なしに離床アドバイザーを認定するものであるが、85% 正答の合格基準を満たすものがおらず、合格者なしとなった。テキストのみの試験学習ではなく、日々の臨床における実際の症例に対し、離床を実践する知識・技術を網羅することが必要と考えられた。

離床プレアドバイザー筆記試験は、例年通り当会の公式テキスト「実践!離床完全マニュアル2」の内容を中心に出題された。呼吸・循環・脳神経・整形外科に関する基礎知識のほか、フィジカルアセスメントや検査データ・薬剤に関する知識も問われる。また、離床の実践やリスク管理に関する基礎知識に関する設問が中心である。また、インストラクター同様に例年より離床の実践を問う問題が多く出題され、問題の傾向が変わっていた。

各受験者には合否通知と詳細な試験結果および採点チャートを通知している。問題の分野別正答率や今後の学習に向けてコメントが記載されているので、是非、参照し、臨床への応用、次のステップアップに活かしていただきたい。また、過去に出題された問題の一部を当会ホームページに公開する。出題の形式や傾向など参考にして欲しい。また、実技試験の実技要綱が掲載されたので参考にされたい。

## https://www.rishou.org/qualification/shiken-hani-yoken#/

離床インストラクターの筆記試験に合格した者は、9月に開催される実技試験に合格するか、10月の離床技術マスター合宿に参加することで、インストラクターとして認定される。資格取得に向け、対策を進めて欲しい。

### <離床インストラクター筆記試験 対策>

離床インストラクターは離床に関する基礎知識はもちろん、研究データの臨床応用、離床の実践に関する知識など出題範囲が多岐に渡るため、離床アドバイザー取得者にとっても難易度の高い問題となる。よって、基礎知識の復習に加え、離床に関する最新のエビデンスや、各分野のガイドラインにおける関連項目をチェックすることが必要となる。また、症例ベースの臨床的設問が多く、時間配分が難しいのもインストラクター試験の特徴である。基礎問題を正確かつ短時間で回答し、症例問題にしっかり時間を掛けられることも対策として重要である。

## <離床アドバイザー筆記試験 対策>

離床アドバイザーは、当会理論コースと実技コースを修了したレベルと同等の知識レベルが要求される。つまり臨床であらゆる診療科の患者に対して離床を行うための知識、アセスメント、離床を実践するポイント、技術を全て知っていることが求められる。疾患に偏らず、検査データや薬剤に関する問題も一定の割合出題されるため、幅広い分野の学習をお勧めする。また、離床の実践問題の割合についても、インストラクターと同様多く出題されるため、アセスメントを統合した臨床判断を、日ごろから鍛錬する必要がある。

## <離床プレアドバイザー筆記試験 対策>

離床プレアドバイザーは例年同様当会公式テキスト(実践!離床完全マニュアル2)の 内容を中心の出題となった。同テキストの内容を中心に基礎事項は確実に正答出来るように おさえることが一番のポイントとなる。その他、離床の実践問題として、症例問題も一定の割合 で出題されるので、過去の問題などを参考に、対策を立てて欲しい。

#### <次回認定試験の予定>

- ・離床インストラクター実技試験
- ・離床技術マスター合宿
- · 2025 年認定試験 (筆記)

2024 年 9 月 16 日 (月・祝) 東京

2024年10月13日-14日(日·月祝)熱海

2025年3月20日(木・祝)オンライン予定